

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	国際文明学系
関係・分野	社会相関論 (文明構造論分野)
教員	准教授：小野寺 史郎 (中国近現代史)
1回生	<p>全学共通科目 (東洋史) および東洋史関連のILASセミナー など</p> <p>学部科目「国際文明学系入門A」を履修すること。外国語については、中国語を履修することが望ましい。</p>
2回生	<p>文明構造論 I B</p> <p>学部専門科目である講義科目、基礎ゼミナールも意識して履修すること。</p>
3回生	<p>文明構造論演習 I B</p> <p>副専攻科目の計画的な履修を行ってください。</p>
4回生	<p>文明構造論演習 I B</p> <p>卒業論文作成に向け、必要な知識を自主的に学修してください。テーマに関連する文学部の科目を履修することを推奨します。なお、科目区分に於いて、取りこぼした科目の履修を忘れないこと。</p>
<p>対象領域の言語である中国語を大切に文献研究を基本としていますが、関心は専門領域に限定されていませんので、みなさんの関心を教員に率直にぶつけてみてください。また、文学部などの科目を積極的に履修されることも推奨します。</p>	

《履修モデル》

講座	6. 東アジア文明講座
学系	国際文明学系
関係・分野	歴史文化社会論（歴史社会論分野）
教員	教授：熊谷 隆之 吉江 崇
1回生	<p><全学共通科目> 日本史Ⅰ・Ⅱ、 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ <学部科目> 基礎演習：日本古代・中世政治文化論Ⅰ・Ⅱ（以上、ILASセミナーと同一科目）</p> <p>東アジア文明講座の教員が担当する全学共通科目のほか、人文・社会科学科目群、自然科学科目群などから、幅広く学識を身につけていきましょう。学系入門科目や外国語ももらさず履修しておいてください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 日本史各論（院政と仏教）、日本史各論（前近代日本の法と秩序）、 日本史各論（戦国・織豊期の公家と武家）</p> <p>全学共通科目の各論のほか、東アジア文明講座の教員が担当する2回生履修可能な学部科目を履修し、専門的な研究にふれていきましょう。副専攻科目についても履修していきましょう。</p>
3回生	<p><学部科目> 日本歴史社会論ⅠA・ⅠB、日本歴史社会論ⅡA・ⅡB、 日本歴史社会論演習ⅠA・ⅠB、日本歴史社会論演習ⅡA・ⅡB</p> <p>卒業論文の内容と、それに伴う指導教員の選択を念頭に、日本の科目に重点をおいて履修してください。あわせて、東アジア文明講座の学部科目や、文学部など他学部の授業を履修し、深い学識を身につけていきましょう。</p>
4回生	<p><学部科目> 日本歴史社会論ⅠA・ⅠB、日本歴史社会論ⅡA・ⅡB、 日本歴史社会論演習ⅠA・ⅠB、日本歴史社会論演習ⅡA・ⅡB</p> <p>指導教員と相談して卒業論文のテーマを決め、それに適した授業を履修しましょう。</p>
<p>歴史学の知識や方法を体得し、よりよい卒業論文を作成するというのが最終的な目標です。総合人間学部の特色を生かして、歴史学だけでなく幅広い学問に接し、独自のテーマや分析視角を見つけ出してください。わからないことや迷うことがあれば、ためらわずに東アジア文明講座の日本史の教員へ声をかけてください。</p>	

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	国際文明学系
関係・分野	歴史文化社会論 (東アジア文化論分野)
教員	<p>〈日本語学・日本文学〉教授：須田 千里(日本近代文学)、教授：佐野 宏(日本語学・上代文学)、教授：長谷川 千尋(日本古典文学)</p> <p>〈中国語学・中国文学〉教授：道坂 昭廣(中国文学)、教授：松江 崇(中国語学)</p> <p>〈中国史・中国思想史〉教授：辻 正博(中国古代～近世史)、准教授：福谷 彬 (中国思想史)</p>
1回生	<p>〈全学共通科目〉： 日本語学・日本文学：国語国文学Ⅰ・同Ⅱ／言学Ⅰ・同Ⅱ／日本近代文学Ⅰ・同Ⅱ／日本近代文学基礎ゼミナール 中国語学・中国文学：漢文学Ⅰ・同Ⅱ 中国史・中国思想史：東洋史Ⅰ・同Ⅱ／東洋史基礎ゼミナールⅠ／東洋社会思想史Ⅰ・同Ⅱ／東洋社会思想史基礎ゼミナール</p> <p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：基礎演習 日本近代文学 中国語学・中国文学：中国文学文化論／中国書誌論／中国古典講読論A・B 中国史・中国思想史：基礎演習 中国史の基礎資料／基礎演習 中国社会思想史の基礎資料</p> <p>東アジア文化論・歴史文化社会論・国際文明学系の教員が担当する全学共通科目の他、人文・社会・自然科学系の科目を幅広く履修することをお勧めします。 2回生進級時に主専攻学系への分属が決まりますので、入門科目などを通じて各学系の特色を知り、希望する学系を絞り込んでゆきましょう(10月下旬ごろに分属説明会があります)。 1回生から履修できる学部科目もあります。</p>
2回生	<p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：日本語学・日本文学ⅠA・B／同ⅡA・B／同ⅢA・B／同ⅣA・B 日本語学文献講読論Ⅰ・Ⅱ／日本古典講読論Ⅰ・Ⅱ／書論・書写演習A・B 中国史・中国思想史：中国社会論ⅠA・B／同ⅡA・B ※このほか、上記1・2回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。</p> <p>2回生で主専攻学系への分属が決定します。学部講義科目の履修を通じて、専門的な学問の世界を体験しましょう。 東アジア文化論関係の講義科目は2回生から履修が可能です。同時に、副専攻をどれにするかを考えて科目を履修し、ものごとを複眼的に見る力を身につけましょう。 外国語科目はこの時期にきちんと履修しておきましょう。教員アドバイザーに勉学等の相談に乗ってもらうこともできますよ。</p>
3回生	<p>〈学部科目〉： 日本語学・日本文学：日本語学・日本文学演習ⅠA・B／同ⅡA・B／同ⅢA・B／同ⅣA・B／同ⅤA・B 中国語学・中国文学：中国文化論演習ⅡA・B 中国史・中国思想史：中国社会論演習ⅠA・B／同ⅡA・B ※上記1・2回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。 このほか、下記のような文学部科目を興味や必要に応じて履修することを推奨します。また、下記のような文学部科目を興味や必要に応じて履修することを推奨します。 系共通科目(国語学)(講義)／系共通科目(国文学)(講義)／国語学国文学(講読)／系共通科目(中国文学)(講義)／系共通科目(中国語学)(講義)／中国語学中国文学(講読)／系共通科目(東洋史学)(講義)／東洋史学(講読) など 国語学国文学(特殊講義)／国語学国文学(演習)／中国語学中国文学(特殊講義)／中国語学中国文学(演習)／東洋史学(特殊講義)／東洋史学(演習)／中国哲学史(特殊講義)／中国哲学史(演習) など</p> <p>東アジア文化論のどのジャンルで卒論を書くか、だれを指導教員に選ぶかを念頭に置いて、関係する学部科目(歴史文化社会論関係、社会相関論関係を含む)を履修します。演習科目もしっかり履修し、文献の読解力を身につけましょう。</p>
4回生	<p>指導教員と相談の上、上記1～3回生の科目で取り残したものがあれば履修して下さい。</p> <p>卒業論文執筆の指導教員を決め、卒論のテーマを決めます。テーマに関連した授業を中心に履修します。将来どのような分野に進んでも、卒論執筆は心に残るべきことです。4年間の勉学の成果を試す意味で、思う存分に書いてみましょう。</p>

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	比較文明論関係	
教員	准教授：津守 陽 (中国文学)	教授：太田 出 (東洋史学)
1～2回生	東洋史Ⅰ・Ⅱ、東アジア比較文芸論、東アジア比較文芸論演習	東洋史Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化交渉論、東アジア文化交渉論演習
	日本と同じ東アジアに属する朝鮮半島や台湾、香港のほか、中東やヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカといった地域や、移民問題、社会変動、芸術・文化などにも関心を持ちながら、幅広い授業を履修して欲しい。あわせて英語はもちろん、中国語、朝鮮語、アラビア語、スペイン語、フランス語など西洋と非西洋世界を知的に往還するための言語を学んで欲しい。また高度な日本語能力を養うことも大切であるので、新書などを数多く読んでもらいたい。	
3～4回生	東アジア比較文芸論、東アジア比較文芸論演習	東アジア文化交渉論、東アジア文化交渉論演習
	3回生には、自らの問題関心を研ぎ澄ませていき、当該分野の専門の講義・演習に参加するとともに、東アジア比較思想論、文化交渉複合論、ポストコロニアル思想文化論、比較パラダイム文明論、ユーラシア文化複合論、中国社会論、中国文字文化論、文化人類学方法、地域空間論など、問題監視にあわせた専門科目を履修して欲しい。4回生には、卒業論文の執筆に向けて問題意識を尖鋭化させながら、文献史料を読み込む訓練を受け、論文というかたちでまとめ上げていてもらいたい。	
本分野では、東アジアの政治・経済・文化などに多大な影響を及ぼしている大国・中国を中心としながらも、それを日本や朝鮮、台湾、香港などと比較することで、地域間の影響関係の有無をグラデーションで考えてみる。今後、日本を含む東アジアの過去・現在・未来を研究しようとするとき、いい意味でも悪い意味でも中国ぬきに考えることは不可能であり、本分野では、学生一人ひとりがそれを前提として研究を進めていくとともに、決して中国を過大評価することはなく、等身大の中国を見つめ相対化しながら、東アジアにおける各地域の有り様を考えていて欲しいと願っています。		

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係
教員	教授：小倉紀蔵（比較文明学・東アジア比較思想）
1回生	<p><全学共通科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 <学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 <学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。</p>
3回生	<p><学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／いろいろな外国語 地球科学演習C 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>外国語をできるだけ多く学び、人文学・社会科学・自然科学の様々な分野を幅広く学んでください。同時に卒業研究の方向性を意識しつつ、思想関係のより専門的な内容を学修してください。</p>
4回生	<p><学部科目> 哲学・思想・文化・文学に関する科目／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p> <p>卒業研究に向けて、必要な知識を自主的に学修し、自分の頭で徹底的に考えぬいてください。</p>
<p>比較文明学・比較思想学は、他の学問分野と関わり合いを持つ非常に広い学問ですので、まず1回生のときからできるだけたくさんの外国語を習得してください。10個くらいの外国語をまず覗いてみて、そのうち西洋・アジアの言語合わせて3つ（英語以外）、プラス漢文読解をマスターできればいいと思います。それから幅広い知識が必要ですので、大学の授業以外に、岩波文庫や講談社学術文庫、ちくま学芸文庫などをジャンルに関係なく1回生と2回生のときに年間150冊ほど読んでください。読むものは、自分の好きなジャンルやテーマで結構です。ここまでが基礎体力づくりの段階です。3回生からいよいよ学問を始めます。演習の授業では原典を読み、また研究発表をしますので、こころを強くして正確性と独創性を発揮してください。ひとに批判されても自信をなくしてはいけません。自分の基礎体力を信じてたたかいを挑んでください。</p>	

《履修モデル》

講座	6.東アジア文明講座
学系	文化環境学系
関係・分野	比較文明論関係
教員	講師：Kwak, Minseok（東アジア哲学・思想・文化）
1～2回生	<p><全学共通科目> 人文学・社会科学全般の科目／初修外国語の科目</p> <p><学部科目> 人文学・社会科学全般の科目／トランス東アジア文化思想論A・B／トランス東アジア文化思想論演習A・B／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p>
	<p>人類がいままで蓄積してきた様々な形の知を探検しながら、自らの問題意識に沿って思考する練習を行ってください。外国語の習得は、そのためのきわめて有効な通路となります。</p>
3～4回生	<p><学部科目> 人文学・社会科学全般の科目／トランス東アジア文化思想論A・B／トランス東アジア文化思想論演習A・B／東アジア比較思想論A・B／東アジア比較思想論演習A・B</p>
	<p>自分の興味関心にあわせて専門的な知識を増やし、その土台の上で自らの観点を論文の形式で表現する作業を進めてください。既存の言説に対する十分な理解がないと、自らの観点を適切な言語で表現することはできません。また、自らの問題意識に導かれた独自の観点がなければ、オリジナリティのない研究になってしまいます。この両方を意識しながら研究を進めてください。</p>
<p>日本・中国・韓国（朝鮮）を含む東アジア文明の特質を究明するためには、東西古今のあらゆる思想文化を視野に入れておく必要があります。それと同時に、専門領域で新しい認識を獲得するためには、高度に専門的な知識も必要です。マクロな思考とミクロな思考が交差するところで、はじめて価値の高い認識が得られます。</p>	